

平成 24 年 6 月 18 日

信州大学名誉教授 小坂 共栄
日本地質学会名誉会員 松島 信幸

浅川ダム呑口露頭について、新たに明らかとなった 事実について（見解）

n

去る 6 月 5 日、我々は浅川ダム敷のいわゆる呑口露頭と呼ばれる箇所の地質調査を午前 10 時～午後 5 時まで、長時間にわたって詳細に行う機会を得た。

その結果を以下のとおり「見解」としてまとめ、公表する。

（確認できた事実）

- 1 SG4 砂礫層をおおう有機質土層は、露頭右側の水平に堆積している部分はシルト～砂質部分が卓越しているが、中央の傾斜している部分ではシルト・砂の少ない有機質土へ岩相が変化している。
- 2 傾斜している有機質土層は上方へ次第に砂礫を多く含むようになり、SG3 砂礫層の上位にほぼ水平に重なる有機質砂礫層（県報告書では細礫混じり粘性土～細砂と記載されたもの）へと連続している。
- 3 傾斜している有機質土層の直上には、有機質土層と同傾斜でシルト～細粒砂層が重なっている。この細粒層の傾斜は左側から右側に向かって 52° - 28° - 18° - 10° - 0° へと変化を示している。

（これらの事実が示すことから）

- 1 明らかに水成堆積物であるシルト～細粒砂層が、傾斜する有機質土層とともにこれだけの傾斜をとっていることは、ほぼ水平に水中堆積した後に傾いたことを示している。
- 2 また、このシルト～細粒砂層と同傾斜の有機質土層も、斜面沿いに堆積したものではなく、平坦なところに堆積したものであることはあきらかである。
- 3 本来水平に堆積した有機質土層やシルト～細粒砂層がこれだけの傾斜で傾いている原因は、直下に見られる断層（平成 24 年 1 月 4 日付、小坂・松島意見書の f1 断層）の活動によることは明らかである。

（我々の見解）

- 1 呑口露頭で見られる有機質土層やシルト層、砂層中の変形・変位構造は、堆積後の f1 断層の活動によって生じたものである。従って、F-V 断層から派生した f1 断層は明らかな活断層である。
- 2 呑口露頭はもちろんのこと、それ以外のダム敷の各露頭で認められるさまざまな現象は、いずれも F-V 断層が活断層であることを強く示唆するものばかりであり、我々が意見書（平成 24 年 1 月 4 日付）で述べたとおり、この断層は浅川ダムにとって極めて危険な存在である。